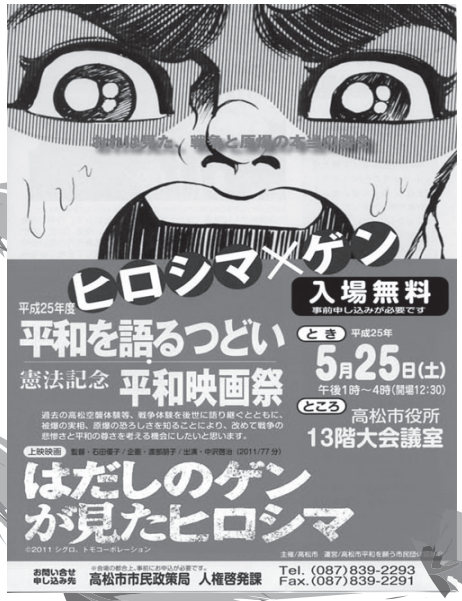
2013.7 No.49

平和記念だより

◆編集・発行/高松市役所　人権啓発課　平和記念係
◆連　絡　先/高松市番町一丁目８番１５号
TEL:087-839-2293　FAX:087-839-2291

平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭



5月25日（土）、高松市役所13階大会議室にて、「平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭」を開催しました。

第１部「平和を語るつどい」では、昭和20年7月4日、当時11歳で高松空襲に被災した湖﨑武敬さんに空襲体験談をお話しいただきました。

被災当時築地町に住んでいた湖﨑さんは、空襲時の行動目標として祖父から「とにかく防空壕になど避難せず、まず逃げろ。」と言われていましたが、祖父が神経痛の発作で動けなくなったため、「家に帰りましょう、そうすれば家族の死体は確認できる。」という母の決断で自宅の防空壕に避難、前日の雨でたまった水をかけ合いながら恐怖の一夜を過ごしたそうです。終盤、会場からの質問に答え、「高松空襲を子どもたちに伝える会」会長の植田正太郎さんに回答の裏づけを求める場面もありました。

第２部「憲法記念平和映画祭」では、昨年12月19日、肺がんのためご逝去された中沢啓治さんが、自身の広島での被爆体験と、代表作『はだしのゲン』を描くまでの半生を語ったドキュメンタリー映画「はだしのゲンが見たヒロシマ」を上映しました。「文章だと読みづらい子にも、漫画なら素直にはいっていく。子どもたちに、素直に戦争反対の気持ちが根付いていってくれたら作者冥利につきます。」と笑顔で語る中沢さんが印象的で、参加者は全員じっくりと聞きいっていました。

平和を語るつどい ◇ 平和映画祭の感想

平和の大切さを、多くの人に伝えたい。まずは家庭の平和から。人のことを考えられる人になりたいです。
（50～60歳代・女性）

自分の体験から涙が出て仕方ありませんでした。なんと私は幸せだったのでしょう。
戦争はもう絶対にしたくないです。
（70歳以上・女性　17歳頃空襲を体験）

小学3年で終戦になりました。食糧不足で現代の子どもたちには話をしても実感はわかないと思います。毎日が恐怖でした。二度と戦争は体験したくない。
（70歳以上・女性）

「はだしのゲン」の作者・中沢先生が残そうとされたことは、十分に本懐をとげられていると思います。私たちは次の世代に、しっかりと伝えてゆきたいと思います。
（40～50歳代・男性）

今後の行事予定

7・8月　高松市戦争遺品展

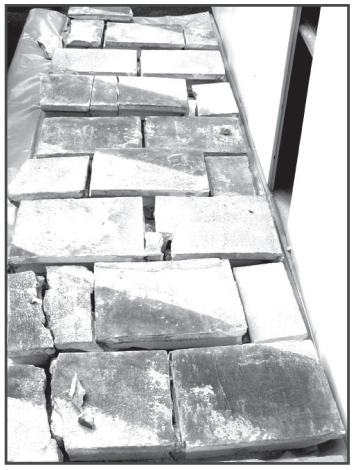
【日　時】7月29日(月)～8月2日(金)
【場　所】高松市役所1階　市民ホール

高松空襲の説明や被害の状況、被災写真・空襲絵画のほかに、昨年百十四銀行より寄贈を受けました「防空偽装を施された壁面」の一部を展示します。これに関連して三越と迷彩色の百十四銀行、琴電高松駅(瓦町駅)、7月4日、B29から投下された焼夷弾の残骸等、関連する写真パネルや空襲絵画等のコーナーを「市民が記録した高松空襲」と題して設けます。

多数のパネル展示のほか、恒例の焼夷弾(親)の実物大レプリカ(約2m)・焼夷弾(子)の展示や体験談・体験記も併せて紹介します。

また、当時使用されていた食器や玩具といった人々の暮らしを伝えるもの、被災資料や写真週報、紙芝居(レプリカ)等の展示も行います。

▼　防空偽装が施された壁面



☆同時開催☆　ユニセフ・パネル展

『戦後の子どもたちへの支援』

ユニセフは、第二次世界大戦後の1949(昭和24)年から1964(昭和39)年まで15年間にわたり、日本の子どもたちの健康・福祉を増進するための支援を続けました。

支援物資による給食や衣料の支給に喜ぶ子どもたちの姿や、乳児健診などの医療支援等、当時の子どもたちを写した写真パネルを展示します。

高松市平和を願う市民団体協議会主催事業　高松戦災・原爆写真展

【日　時】8月5日(月)～8月9日(金)
【場　所】高松市役所1階　市民ホール
【内　容】高松空襲、原爆の惨状を伝える写真・絵画・遺品等

イベントレポート

高松空襲写真展

【日　時】　7月3日(水)～7月9日(火)　　【場　所】　まなびCAN 1階　エントランスホール

今回は、「高松空襲」「焦土と化した市街地」などの写真パネルのほか、高松空襲を描いた絵画や体験談など、計50点弱を展示しました。まなびCANでの開催ということで、高松警察署(旧)・高松本駅前と複数の市内電車線路・高松地方専売局等、片原町を中心に写真パネルを選びました。

▲　国鉄高松駅と前面を通る市内電車路

戦争を知らない世代が大半を占めるようになった今日、昭和20年7月4日、高松市が空襲を受けたという事実を知らない人もかなりの数になってきています。戦争は大昔の歴史ではなく、どこか遠い外国での出来事でもないのだということを認識して、改めて平和について考える機会として役立てていただければと思います。

▲　東瓦町から市役所を望む

教職員のための平和教育講演会

【日　時】　8月21日(水)　14:00～16:30　　【場　所】　高松市役所3階　32会議室

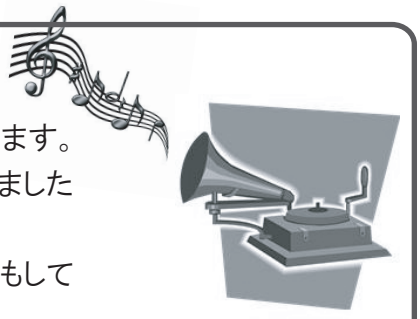
【講　師】　高松空襲を記録する会　　戸祭　恭子
　　人権啓発課平和記念係　　塩谷　重昭

【内　容】　平和記念係では、本年度より高松空襲と戦時中の生活、また、原爆について学ぶことのできるパワーポイントデータの貸し出しを開始しました。これを使用しての学習例と語り部による空襲体験談の講演を行います。

10月　収蔵品巡回展

【日　時】　10月26日(土)27日(日)
【場　所】　高松市立木太小学校
【内　容】　地区の方々から寄贈されている戦争遺品を中心に公開展示します。

探しています！



高松市では、引き続き戦争中の生活の様子を伝える資料等を収集しています。特に、玩具、蓄音機、戦時中のことが記載された記念誌や自分史等ございましたらご一報ください。皆様からのご提供をお待ちしています。

ご寄贈いただいた資料は『戦争遺品展』等で展示するほか、一部貸し出しもしておりますので、詳細は人権啓発課・平和記念係までお問い合わせください。

戦時用語解説 ㊸　復員・引揚げ

ポツダム宣言の受諾による降伏を、突然の出来事として受け取った日本国民は決して少なくない。

降伏文書調印の手続きは、1945（昭和20）年9月2日、東京湾に入って来たアメリカの戦艦ミズーリー号の艦上で行われた。

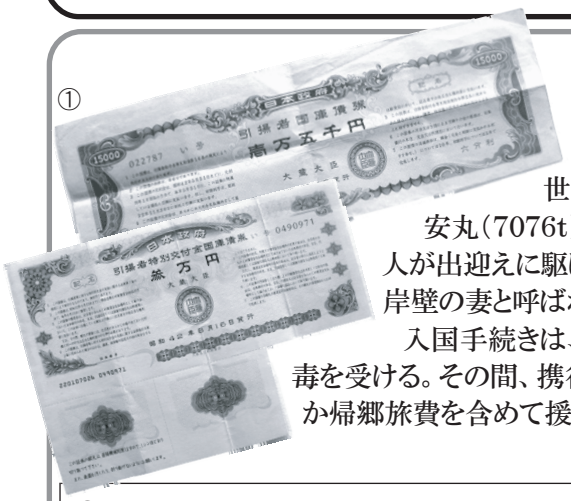
その時点で、「外地」に残された軍人や一般邦人の帰国は、必ずしも順調には進まなかった。船舶の大部分が戦争中に失われている（使用した船舶は、旧海軍艦艇等と米軍貸与のもの）からで、その遅滞のため、降伏決定後も南方の孤島などに取り残され、餓死者を出す例や長期の強制労働に苦しんだ者。さらに、戦後ソ連軍によりシベリアに連行された満州駐在の諸部隊等は、強制労働を課せられ、苦難の体験を重ねることになる。彼等の引揚げは、1956（昭和31）年にまで及んだ。

やっと母国の港の岸壁にたどり着いた人々の姿の中で、特に涙を誘ったのは、幼い引揚げ者たちの、疲れ切った姿であった。ソ連の参戦により、避難の途中、飢餓、伝染病、自決などで犠牲者を出し多くの子ども達が肉親・兄弟と生別または死別。孤児となって中国人に引き取られた者（中国残留孤児）も多くいた。海外で家族を失った子ども達は、遺骨のほかには財産もなく、まさに身一つの帰国となった。

終戦にともない、兵士が軍隊から戻ることを"復員"といい、一般市民が帰国することを"引揚げ"という。

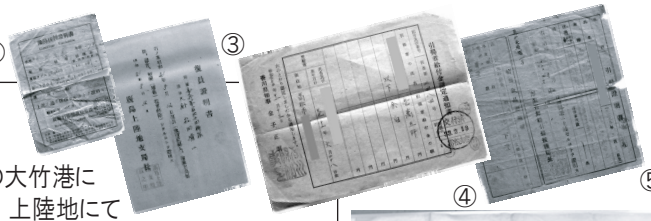
（ラバウルの収容所では、復員兵が帰還するまでの間、日々を無為に過ごさないために勉学や教養育成活動に力を入れている。帰還が決まると乗船指定地に集まり、手荷物検査を受け、手続きが済むと乗船を開始した。）

▶ 収蔵品紹介 42【復員・引揚げ関係資料】



祖国日本の主な上陸地は、最盛期で鹿児島・浦賀・博多・舞鶴・宇品・佐世保・仙崎・大竹・田辺・名古屋・函館・横浜等であった。引揚げ業務では、興安丸（7076t）、高砂丸（9347t）などが活躍した。（舞鶴港には、13年間で全国から約10万人が出迎えに駆けつけた。いつ戻るかも知れない息子や夫を待ち続けた人も多く、岸壁の母・岸壁の妻と呼ばれた。）

入国手続きは、先ず検疫と検診を受け、種痘・各種予防注射・ツベルクリン反応・DDT消毒を受ける。その間、携行荷物も税関検査とDDT消毒を受ける。引揚者には、被服・靴・医薬品のほか帰郷旅費を含めて援護局が支出した。



①引揚者国庫債券…壱万五千円　昭和32年6月1日発行
②予防接種証明書…舞鶴引揚援護局検疫所　昭和23年11月6日
③復員証明書…1946（昭和21）年5月12日、アメリカ軍の船で広島県の大竹港に上陸、帰還した時の証明書。（旧軍人が、日本敗戦後に内地へ帰還し、上陸地にて復員した証明としてもらったものである。）
④引揚者給付金認定通知書…（知事名で）昭和33年11月13日
⑤引揚証明書…1946（昭和21）年7月4日舞鶴港に上陸したことを証明した書類。下着1、日用品1、地下足袋1、靴下1、1千円を支給とある。

▲ 日の丸旗

シベリア抑留からの帰還で宇野に着いた時（昭和24年12月7日）、県庁職員がこの日の丸で出迎えた。
※高松百年史・資料編より
「外地復員者高松連絡所について」・昭和21年2月・・・宇野及高松桟橋ニ海外復員者高松連絡所員ヲ派遣シ四国上陸第一歩ニ於イテ復員者ノ労ヲ犒ヒ且外地及戦友ノ状況ヲ聴取スル如ク処置セラレマシタ処・・・

編集メモ

今回は、5月25日の「平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭」と「高松空襲写真展」の様子をお伝えしました。

7月29日から開催される「高松市戦争遺品展」では、昨年百十四銀行より寄贈を受けました「防空偽装を施された壁」の一部も展示する予定です。小・中学校の夏休みの宿題等のほか、平和について改めて考えるきっかけとしてお役立て下さい。

▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）

http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/18976.html